



郡家とは

お米や特産物は、当時の貴重な財源でした

郡家の構造

正倉(しょうそう)

館(たち)

厨(くりや)

郡庁
(ぐんちよう)

<用語ワンポイント>

郡家(ぐうけ)

郡におかれた役所(上野国は平安時代14郡あった) こずけのくごうたいじつろくちよう
「上野国交替実録帳」によれば、郡家は以下の4つの建物からできている。

「正倉」(しょうそう)

そせい 租税として徴収した米を ほかん 保管する倉庫群

「郡庁」(ぐんちよう)

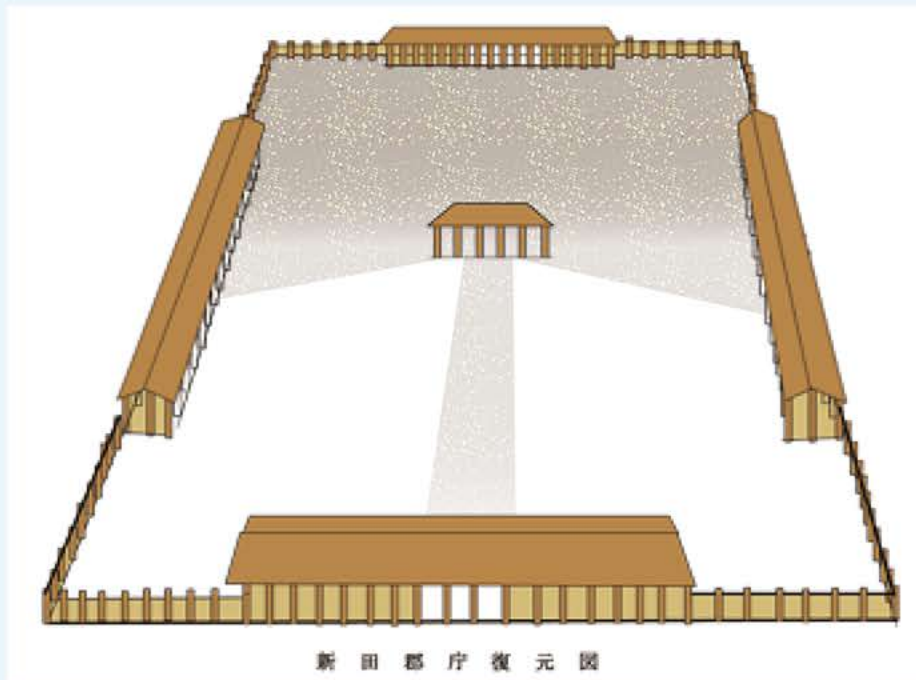
ぐんじ 郡司(郡を治める地方官)が ぎしき 儀式や せいむ 政務を行うところ

「館」(たち)

郡司の しゆくしゃ 宿舎、巡行している役人の しゆくほくせつ 宿泊施設

「厨」(くりや)

郡家全体の食事の ちようたつ 調達、役人の しよくぜんきようきやうじよ 食膳供給所



入口には門があるのではないかと予想されます。また、南正面には入口に向かって道路があると思われる。